

郷土館発

♪田舎のバスは〜♪

「はい、北設楽郡のバスはいつごろから走つとるだらねえ」と聞かれ、すぐに答えることができませんでした。実は北設の路線バスが人々の生活の中にどのように位置づけられていたのかを新しい郷土館に展示しようという案がまとまり、再調査を始めたばかりだったからです。

郷土館には、平成二十一年頃にまとめられた『交通運輸年表』があり、田口鉄道の時間表等に路線バスが記載されている資料がありました。その年表を見ると北設に路線バスができたのは、「大正八年（一九一九年）

大海と田口の間に東三自動車会社バス開通」とあります。今から約百年前のこととなります。（同じ年に本郷と長篠間も路線バスができました。）

その後、北設のバス路線は順調に広がっていき、鳳来寺鉄道・田口鉄道・三信鉄道の開通とともに充実していった様子が年表から分かりました。その後、資料収集を進めていくと、いくつかの面白い資料に出合うことができました。

一つ目は、昭和十年の田口鐵道青年會々誌「いなめ」八月号に掲載されていた『三河田口駅以遠バス連絡』という路線図です。田口駅を起点として、北は津具根

羽経由と豊根新野経由での飯田駅（伊那電気鉄道）、東は三輪駅（三信鉄道、現飯田線東栄駅）、北西は岩村駅（明智

鉄道）、西は足助・舉母（まだ豊田ではありません）までのバス路線について、バス会社・乗り換え場所・距離（里で表記）が分かりやすく書かれています。

昭和十年の段階で、これだけの交通網が整備され、なおかつ鉄道駅を起点とした乗り換え情報が整理されていたことには驚かされ、設楽町が南北を結ぶ交通の要所であったことが分かります。

二つ目は、明治維新後の交通網の整備が、鉄道の敷設と深く関係しながら発達したということです。北設の鉄道は、田口鉄道が本長篠から田口まで延びてきました。それと前後して路線バス網も開通していきま

す。設楽町とつながる隣接の市町村ではどうかというと、やはり同じような様子が各市町村誌から読み取ることができました。長野県側では、伊那谷に鉄道を敷設することの動きがあり、同時期に路線バスが発達していきま

す。西側では、舉母・足助稲橋―田口を尾三バスがむすび、舉母から稲橋までの鉄道建設の話もあつたようです。郡内の路線バスに関わる資料集めは始まったばかりですが、新しい郷土館では整理したものを見ていただけるようにしたいと考えています。

（奥三河郷土館長 渡邊 俊也）

昭和三十一年の 鉄道・バス時間表

昭和三十一年 豊鉄田口線・飯田線		名鉄バス時間表 十月廿四日現在	
田口線田口駅到着時間		田口線本長篠方面行(上り)	
九三六	八七三	五四三	五〇三
八三六	七七三	四〇三	三六三
七三六	六七三	二六三	二二三
六三六	五七三	一二三	〇八三
五三六	四七三	九〇三	九〇三
四三六	三七三	七六三	七六三
三三六	二七三	六二三	六二三
二三六	一七三	四八三	四八三
一三六	七三	三四三	三四三
三六	三	二〇三	二〇三
飯田線飯田長勢方面行(下り)		飯田線豊橋方面行(上り)	
八三六	八七三	八三六	八七三
七三六	七七三	七三六	七七三
六三六	六七三	六三六	六七三
五三六	五七三	五三六	五七三
四三六	四七三	四三六	四七三
三三六	三七三	三三六	三七三
二三六	二七三	二三六	二七三
一三六	一七三	一三六	一七三
三六	三	三六	三
豊鉄・名鉄バス田口発		豊鉄名鉄バス	
津具根	新野	豊橋	田口駅前
五三六	五〇三	五三六	五〇三
四三六	四〇三	四三六	四〇三
三三六	三〇三	三三六	三〇三
二三六	二〇三	二三六	二〇三
一三六	一〇三	一三六	一〇三
三六	三	三六	三

